



☆「SDGs探究AWARD2025」研究・調査部門 優秀賞（全国1位）受賞

中高生や大学生がSDGsに関する探究活動を発表するコンテスト「SDGs探究AWARD2025」で、大洲農業高校の研究「失われた榎産業を未来へ～農家所得と里山を同時に再生するSDGs実践～」が、研究・調査部門で優秀賞（全国1位）に輝きました。

榎は、実から天然のろう「木蠟」が採れる植物で、木蠟は和ろうそくや化粧品などに使われる伝統素材。江戸時代には伊予大洲藩でも盛んに生産され、農家の重要な収入源でしたが、明治以降、石油製品の普及により次第に衰退しました。

この取り組みは「里山再生のため榎の苗木生産を担ってほしい」と市からの要請を受け、2022年からスタート。発芽しにくいという問題に向き合いながら改良を重ねた結果、発芽率を約80%まで高め、苗木生産体制の確立を図りました。また、校内の農地や市所有の休耕地で榎の栽培にも取り組み、収穫した実から採れた木蠟を使った和ろうそく「シン・和蠟燭」を商品化するなど、農家と地域の新たな可能性を広げています。

普段は食品デザイン科で学ぶ2人。専門外の分野に挑戦する難しさを感じながらも、「新しい発見が多く楽しい」と話します。片山さんは「化粧品やせっけんなど新しい商品づくりに挑戦したい」、本田さんは「ワークショップなどを通じて、小学生から榎や木蠟の魅力を広げていきたい」と今後の意気込みを語ってくれました。

大洲農業高等学校 3年（受賞時2年）

「榎の環プロジェクトチーム」

インタビューに答えてくれた

片山 璃奈 さん(左)

本田 結愛 さん(右)

HighSchool NOW

Vol.110 大洲高等学校肱川分校

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

みなさんこんにちは！大洲高等学校肱川分校3年の中岡歩夢です。

2月3日に、職場見学へ行きました。大洲市内3か所、肱川町内1か所の事業所へ行き、仕事を見学・体験させていただきました。私は鹿野川荘で、調理補助や接客をしました。来店されたお客様と話すときは緊張しましたが、言葉遣いに気をつけて接客することができてよかったです。事業所の方々に優しく教えていただきながら、働くことについて学べた貴重な時間となりました。ありがとうございました。



一次回は大洲農業高等学校からですー